

いのち  
生命の<sup>いのち</sup>にぎわいとつながり

No. 51

平成29年1月

新年あけましておめでとうございます。今年は、千葉県生物多様性センターが設置されてから10周年となります。今後も多様な主体と協働して、希少生物の保全や外来生物対策の取組を推進するとともに、皆様に身近な生物多様性を知っていただけるよう普及啓発に努めていきます。

本号では、センターの設置からの取組について紹介するとともに、秋季の<sup>いのち</sup>生命のにぎわい調査団現地研修会の開催結果と連携大学の研究成果発表会について報告します。

## 生物多様性センターは設置10周年を迎えます



早春に咲くフクジュソウ（撮影：木村陽子）千葉県レッドデータブック：最重要保護生物A

### CONTENTS

- 1 生物多様性センターは設置10周年を迎えます ..... 1
- 2 <sup>いのち</sup>生命のにぎわい調査団現地研修会を開催しました ..... 3
- 3 千葉県と連携大学との研究成果発表会を開催しました ..... 3
- 4 千葉県の希少種（フクジュソウ） ..... 4

### ●生物多様性センターは設置10周年を迎えます

昨年12月にメキシコのカンクンで開かれた「生物多様性条約第13回締約国会議」のことは、日本ではほとんどニュースになりませんでした。

一方で、2015年にフランスで開かれた「気候変動枠組条約第21回締約国会議」ではパリ協定が採択され、昨年その発効が大きなニュースになりました。さらに、パリ協定をめぐるアメリカのトランプ大統領の動向が注目を集めています。

1992(平成4)年にブラジルで開催された地球サミットにおいて、「生物多様性条約」と「気候変動枠組条約」は、双子の条約として同時に採択されました。ところが、現在、その認知度や対策には、大きな開きがあります。

### ●生物多様性をめぐる10年

社会的認知度はまだ低いものの、千葉県生物多様性センターが設置された2008(平成20)年4月からの10年間は、まさに生物多様性の10年と言える大きな社会的動きがあったことも事実です。

2008年6月に生物多様性基本法が制定され、ここで初めて生物多様性国家戦略とともに生物多様性地域戦略が法律上位置付けられました。現在、すでに39の都道府県が地域戦略を策定し、市区町村においても策定が進んでいます。生物多様性が地方自治にまで浸透しつつあると言えます。

2010(平成22)年には、「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」が名古屋市で開催され、世界の国々が集まって生物多様性の保全と持続可能な利用について議論が行われた結果、新たな世界目標の「愛知目標」や遺伝資源の利用に関する「名古屋議定書」が採択されました。このことは、生物多様性の社会的浸透に大きく貢献しました。これと前後して、「日本経団連生物多様性宣言」が公表されるなど、経済界でも生物多様性の取組が進展しました。



COP10いきものみつけシンポジウムでの講演(2010年、名古屋市)

### ●千葉県における取組と現状

この10年間、当センターでは、絶滅危惧種の保護回復や特定外来生物の防除を行いながら、生物多様性に関する取組の輪を広げること重点を置いてきました。生命(いのち)のにぎわい調査団、ヒメコ

マツ系統保存サポーター、生物多様性ちば企業ネットワーク、県内8大学との連携協定、シャープゲンゴロウモドキやヒメコマツの保全協議会、生物多様性巡回展等により、広く県民の皆様や関係者と連携し、その活動を推進してきました。



生物多様性巡回展：エコメッセ2011(2011年、千葉市)

しかしながら、千葉県の里山に目を向けると、スギ・ヒノキ植林では間伐が行われずに、荒廃が進んでいます。コナラ・クヌギ等の落葉広葉樹林では、林床をアズマネザサが覆い、種組成の貧化が起きています。水辺は改変が進み、生物が利用できる連続的な環境が失われつつあります。竹林の拡大も深刻で、竹の根茎が伸びてきて、数年のうちにスダジイ林やコナラ林が竹林に変わってしまいます。さらに、アライグマ、キョン、アカゲザル、カミツキガメを始め、多くの外来生物が増殖し、その勢いは止まることを知りません。



発信機を利用したカミツキガメの行動調査(2016年、佐倉市)

### ●今後の展開

生物多様性の現状、保全の取組、そして社会の動向は、まだ歯車のように互いをうまく動かしているようには思えません。私たちは、こうした状況に目を向け、戦略的に推進方法を考えていく必要があります。

生物多様性は、生態系サービスを通して地域社会を支える基盤となるものです。生物多様性を保全することは、地域の資源に目を向け、地域の未来を考えることにも通じます。当センターでは、持続可能な社会を目指して、科学的なノウハウを蓄積し、多様な主体との連携の輪を広げ、生物多様性の保全が様々な活動において当然のこととして配慮される社会になるよう、これからも取り組んでまいります。

(熊谷 宏尚 千葉県生物多様性センター)

いのち  
**生命のにぎわい調査団の現地研修会を  
 開催しました**  
 香取神宮・水の郷さわら自然観察湿地 9月24日(土)

朝から、どんよりとした曇り空。秋雨前線が停滞して「午後から小雨」という天気予報でしたが、観察ルートも今回は特に危険ではないので、雨が降り出した場合は途中中止することにして、集合場所の香取神宮へ向かいました。今回は54名の団員（うち12歳以下が12名）、生物多様性センターと自然保護課の職員10名、計64名が参加しました。

香取神宮権禰宜の佐川和浩さんと、ボランティアでこの地域のガイドをされている川崎寛美さんの案内で香取神宮の森でトキホコリ（千葉県RDBランクB）、ヨウラクラン（同ランクD）などの植物を観察しながら参道を進み、まず本殿を参拝。香取神宮の歴史や、神宮の丘が亀の甲のように見えることから「亀甲山（かめがせやま）」と呼ばれること等の説明をいただき、踏まれたカヤの実のよい香りを嗅ぎつつ、香取神宮の森へと入って行きました。研修会ということで、特別に生きものの採集と観察を許可いただきました。



香取神宮の山門をくぐる参加者

鹿苑前のぬかるんだ草地でニホンアカガエル(A)、ヒバカリ(D)、ヒメカマキリ(C)、スジグロシロチョウ等を発見。ひとしきり昆虫・小動物採集をしてから、次は参道にある池で水生生物の調査。コイ、モツゴ(D)、トウキョウダルマガエル(B)等をつかまえました。しかし正午をすぎた頃、突然、大粒の雨が降り出してしまいました。

昼食場所として用意していただいていた神宮内の神徳館へと急いで、昼食をとりながら、「利根川の東遷と川の魚類」と、「香取神宮の森の小鳥」について、それぞれ生物多様性センターの鈴木規慈、中込哲によるスライド解説を楽しみました。また、ボランティアガイドの川崎さんから、香取神宮内で撮影したフウラン、キンラン、ギンラン等の写真をご紹介いただきました。

残念ながら雨が降り止む気配はなく、ここで今回の現地研修会は終了となりましたが、午後の観察場所として予定していた水の郷さわら自然観察湿地に立ち寄り、傘をさしながら水辺を見ました。前日までの大雨の影響でかなり増水し、下見のときに見た川原の植物や昆虫の観察は、残念ながら無理な状況でした。

参加した団員へのアンケートでは、香取神宮のふだん見られない場所を拝見できたこと、想像以上にたくさんの生きものがいるのを見られたこと等を喜んでいただけたようでした。

(御巫 由紀 千葉県生物多様性センター)

**千葉県と連携大学との研究成果発表会  
 を開催しました**

平成28年11月26日（土）に千葉科学大学マリナーキャンパス防災シミュレーションセンター（銚子市）において「平成28年度千葉県と連携大学との研究成果発表会」を開催しました。これは、千葉県と連携協定を締結していただいている8大学（江戸川大学、東京大学、千葉大学、千葉科学大学、千葉工業大学、東京海洋大学、東京情報大学、東邦大学）の生物多様性保全等に関する研究成果を発表する場で、今年度で7回目となりました。

今回は「野生生物の保護管理～野生鳥獣の増殖と外来生物問題を中心に～」をテーマに、千葉県自然保護課及び生物多様性センター、銚子市生涯学習スポーツ課及び連携大学の発表者から、口頭、ポスターを合わせて24題の講演があり、約70名が参加しました。

●**研究成果発表会**

口頭発表は、千葉科学大学の加瀬ちひろ助教から、目撃情報があった銚子市内のイノシシについて、群れでの生息・繁殖・定着の様子について発表がありました。また、東京情報大学の原慶太郎教授からは、野生生物の保護管理対策に役立つ生態系スケールや景観スケール、生息環境などのハビタットの考え方について紹介がありました。江戸川大学学生の生沼美夏さんからは、柏市内を流れる農業用水路の護岸工事が、生きものの減少など自然環境に与えた影響をまとめた発表がありました。この他に、銚子市生涯学習スポーツ課岩本直哉主任研究員から、平成24年に認定された銚子ジオパークの取組として、銚子の地形・地質、動植物、歴史・文化などについて発表がありました。県自然保護課鳥獣対策班岩城光技師から、農林業の被害が顕著なイノシシやニホンジカ、キョン等の防除対策の取組について報告を行いました。



ポスター発表の様子

ポスター発表では、イノシシやアライグマ、ヒヨドリ等の野生鳥獣、ウミガメ、ナガエツルノゲイトウ、キノコ等の動物・植物・菌類に至る多岐にわたる研究発表がありました。また、発表者である学生の皆さんが、普段の学生生活では意見をもらう機会が少ない他大学の教員や専門家と活発に議論する様子も見られました。

発表会の最後には、千葉科学大学の糟谷大河講師が座長を務める総合討論が行われ、野生鳥獣の有用な防除対策等について討論されました。なお、当日の講演要旨は、県生物多様性センターのホームページ (<http://www.bdcchiba.jp/>) に掲載しております。

本発表会は、どなたでも来聴いただけます。来年度の開催も企画しておりますので、次回も皆様お誘い合わせのうえご参加ください。

### ●エクスカーション

初めての試みとして、発表会翌日の11月27日(日)にエクスカーションを実施しました。エクスカーションには22名の参加があり、千葉科学大学の加瀬ちひろ助教の協力の下、銚子市長山町でイノシシの生息状況を観察しました。

竹林をかき分けて自動撮影カメラのある場所まで行き、カメラに映ったイノシシの映像や竹にこすりつけられた泥の跡などを確認したほか、畑に残る足跡も観察して、イノシシを身近に感じることができました。また、猿田神社では、「銚子ジオパーク推進市民の会」の伊藤小糸さん他4名のジオガイドによる本殿建物や神社内のスダジイ極相林等の解説があり、丁寧なガイドが好評でした。

(酒井 さと子 千葉県生物多様性センター)



出没するイノシシの説明を受ける参加者

### お知らせ

いのち  
○生命のにぎわい調査フォーラムを開催します。調査団員の活動報告や写真コンテストを行いますので、是非ご参加ください。

日時：平成29年3月4日(土) 13:00~16:00

場所：千葉県立中央博物館 講堂

定員：先着100名・参加無料

(酒井 さと子 千葉県生物多様性センター)

## 千葉県の希少種

### フクジュソウ

(千葉県レッドデータブック：最重要保護生物A)

フクジュソウはお正月の鉢植え等で昔からお馴染みですが、最近の研究で国内のフクジュソウの仲間

はフクジュソウ *Adonis ramosa* Franch.

キタミフクジュソウ *A. amurensis* Regel et Radde

シコクフクジュソウ *A. shikokuensis* Nisikawa et Koji Ito

ミチノクフクジュソウ *A. multiflora* Nishikawa et Koji Ito

に分けられるといわれています。国のレッドデータリスト(2015)ではシコクフクジュソウが絶滅危惧-II類(VU)、ミチノクフクジュソウが準絶滅危惧種(NT)にランクされています。

千葉県に自生するのはフクジュソウ *A. ramosa* とされ、県では最重要保護生物(A)となっていますが、花も葉も小型で、葉の表面にパラフィン質が多く白い筋があるように見える等の点で、標準的なフクジュソウとは区別されるのではないかと考えられます。

かつては北総台地に点々と自生していたようですが、観賞用に採取されたり道路建設等で数が減り、今ではほとんど残っていません。成田山の参道で山採りのフクジュソウが売られていたこともあったようです。

表紙の写真は富里市大和で市指定天然記念物として大切に保護されている自生地<sup>おおわ</sup>で、昨年3月に撮影されました。

江戸時代にはふつうの黄色いフクジュソウだけでなく、赤花、白花、八重咲き等の品種が珍重されました。

この絵には、そのなかで現在でも栽培されている‘秩父紅’という赤花品種が描かれています。名前も縁起のよい「福寿草」ですし、新春(旧暦)の寒い時期にこの花を見た江戸時代の人の喜びが、この精緻な絵からも伝わってきます。



右図：『珍花福寿草』より  
‘ちぶ紅’  
(千葉県立中央博物館所蔵)

(御巫 由紀 千葉県生物多様性センター)



生物多様性ちばニュースレター No.51 平成29年1月31日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター(環境生活部自然保護課)

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(千葉県立中央博物館内)

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp>